

ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学子ども学科

准教授 福泉 博子

1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として保育士資格、幼稚園教諭2種免許状取得における音楽・ピアノにおける分野の教科を担当している。

2023・24年度の担当科目は（表1）の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
音楽 I	2023	前期	1年生	演習	28名 24名	2クラス ※教員2名
	2024	前期	1年生	演習	30名 28名	
ピアノ I	2023	前期	2年生	演習	22名 23名 22名	3クラス ※教員4名
	2024	前期	2年生	演習	22名 24名	2クラス ※教員5名
保育内容表現	2022	後期	1年生	演習	24名 23名 23名	3クラス ※教員3名
	2023	後期	1年生	演習	48名	1クラス ※教員3名
保育内容表現の 指導法	2023	前期	2年生	演習	22名 23名 22名	3クラス ※教員3名
	2024	前期	2年生	演習	45名	1クラス ※教員3名
子ども文化演習B	2022	後期	2年生	演習	59名	※教員3名
	2023	後期	2年生	演習	67名	

子ども学演習Ⅰ	2023	前期	1年生	演習	52名	※教員4名
子ども学演習Ⅱ	2023	後期	1年生	演習	52名	※教員4名
子ども学ゼミナールⅠ (子どもの音楽)	2023	前期	2年生	演習	67名	※教員6名
	2024	前期	2年生	演習	音楽ゼミ 12名 47名 音楽ゼミ 11名	
キャリアアップ セミナーⅠ	2023	前期	1年生	演習	52名	※教員4名
キャリアアップ セミナーⅡ	2023	後期	1年生	演習	52名	※教員4名
キャリアアップ セミナーⅢ	2024	前期	2年生	演習	47名	※教員4名
保育入門	2023	後期	山村国際高 校3年生	演習	7名	※教員4名

(表1) 2023・2024年度 担当科目詳細一覧

委員会名	年度	備考
図書・紀要委員会 (委員長として)	2023 2024	図書等の購入。 紀要の編集と発行。図書館便りの発行。 埼玉県 図書館と県民のつどいへの参加。 図書館アンケートの実施。学園祭への参加。 くつろげる空間づくり等を行う。
学生支援委員会 (委員長として)	2023 2024	学生の学園生活の指導や支援。心のケア。 遠隔地通学生、職業訓練生の対応と支援。 学生会(総務委員会・山緑祭実行委員会)の対応 学生総会・学園祭等の学生主体行事の取りまとめ サークル活動の対応。 学園祭の運営

		各種奨学金に関する対応。 避難訓練、交通安全運動の実施。 プレコンセプションケア講座の開催 消費者トラブルについての講座
--	--	---

(表2) 2023・2024年度 委員会詳細一覧

2. 教育の理念

私が音楽教育に携わってきた中で、保育者を目指す学生たちに対して心がけていることは、音楽の基本や原点を丁寧に指導するとともに、感じる心や想像力を養うことである。そして、子どもたちと一緒に音楽活動を楽しみ、伝えることができる人材を育成することである。

保育者を目指す学生の中には、ピアノ未経験者や初心者が非常に多く、基本的な知識も皆無である。音楽の知識やピアノ奏法などの技術を学ぶことは大変困難ではあるが、2年間という短い時間の中で保育者として自信をもって音楽活動に取り組めるよう、次にあげる7つの項目を学生に習得してほしい。そして、広い視野と柔軟な心や発想力で子どもたちの心を育むとともに、保護者や地域の方と関わってほしいと考えている。

- ①楽譜を読む力（読譜力）
- ②演奏する力（ピアノなどの鍵盤楽器・子ども達が扱う楽器）
- ③歌唱力（正しい発声ができる。適度な声量で子供と一緒に楽しみながら歌える。）
- ④感じる力（自然や生活の中で五感を使って感じる）
- ⑤想像力（物事をよく考え頭の中に思い描く）
- ⑥創造力（新しいものを作り出したり工夫する）
- ⑦表現する力（声や体、楽器はもちろん様々な手法を使った音の表現）

3. 教育の方法

担当している教科は演習科目であり、1名で担当する科目もあれば、複数で担当する科目もある。ここでは、専門分野の「音楽Ⅰ・Ⅱ」「ピアノⅠ」についての教育の方法を示す。

(1) 音楽Ⅰ・Ⅱ 1年生

【授業の概要】

保育士資格必修の本科目は保育者として必要となる音楽の基礎的な知識、技能の理解と習得を目指す。そのため、楽典や歌唱法、ソルフェージュに関する授業を前期に、ピアノや弾き歌いなどの個人レッスンを後期の授業で実施し、音楽全般について総合的に学習します。また、本学の自然環境を生かした音遊びの中で五感と想像力を養う。

【ねらい】

- 1) 幼稚園や保育所などで歌う「こども・幼児のうた」の特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながら幼児の指導ができる力を身につける。
- 2) 自然や生活の中にある音を感じ、声や身体、楽器、身近にあるものを使って音楽を奏でる方法を習得する。また、それらの方法を用いて、子どもの発達に合わせた活動が出来るようにする。

【内容と到達目標】

音楽Ⅰ

- ①こどものうたの特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながらこどもと関わる。
- ②音楽の知識を身につけ、一人で読譜ができるようにする。
- ③歌唱やドレミパイプなどの単体楽器での合奏を通して演奏する楽しみ、他者と合わせる楽しみを体験の中から感じとる。

前期は2名の教員で授業を行う。①②では音楽（ピアノ）未経験・初級者クラスと経験者クラスの2グループに分けグループレッスンや個別指導で学生一人一人が理解できるよう心掛けた。また、③ではグループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と人との関わりを学べるようにした。

音楽Ⅱ

- ①初級者は、ピアノ・弾き歌い進度表（山村短大オリジナル）の応用Ⅱまでの習得。
- ②中級者は、ソナチネアルバムⅠやブルグミュラーの習得。
- ③上級者は、ソナタアルバムや同レベルのピアノ曲の習得。
- ④生活のうた、季節のうたなどを通して、子どもの心に伝わる歌い方ができる。
- ⑤子どもの歌、手遊び、読み聞かせ等保育者は発声をする機会が非常に多い。

声楽レッスンを取り入れ、豊かな声で歌唱、発声が出来るようにする。

音楽Ⅱでは、ピアノレッスン（4名）、声楽レッスン（1名）計5名の教員が毎週個人レッスンを行う。学生一人に対してのピアノレッスン時間は18～20分。その他の時間は個人練習時間とし、課題練習の時間にあてた。ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個々にあった指導を心掛けている。また、声楽レッスンは3週に1度15分程度の個人レッスンを実施し、歌唱表現力向上をねらう。

（2）ピアノⅠ

【授業の概要】

保育現場で必要とされる鍵盤楽器(ピアノ)の奏法を学ぶ。ピアノ未経験者から上級者まで、個々のレベルに合わせたレッスンを行う。初級者はバイエルなどの教則本を使い初歩的技術の習得を、中・上級者はソナチネなど様々な楽曲を用いて総合的な音楽力を身につけ、園生活で使われる基本的な生活の歌を習得する。

【ねらい】

読譜力を身につけ、正しい運指法、打鍵法で演奏できるようにします。幼稚園・保育所等で歌う生活の歌を弾き歌いできるレベルを目指す。

【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、4名の教員でピアノレッスン（個人レッスン）を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15～20分程度。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。
- ②初級者は「ピアノ・弾き歌い進度表」の基礎Ⅰまでを、中級者は基礎Ⅲまでを、上級者はソナチネ・ソナタ・ブルグミュラーなどが演奏できる。
- ③園で歌われる生活の歌や季節の歌、童謡などの弾き歌いができる

4. 教育の成果、評価

2023年度の前期・後期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。各設問の内容は次の通りである。（表3-1,2,3）

問1 学生自身の、この授業への取り組みについて
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。
3, 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。
問2 授業内容について
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。
3, 授業の進度(速さ)は適切でしたか。
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。
問3 授業の進め方について
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。
3, 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。

問4 全体的評価

全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。

(表 3-1)

2023年度の前期授業アンケートの結果一覧（5点満点）

	音楽 I	ピアノ I	保育内容表現の指導法
問 1	1 4.62	1 4.15	1 4.05
	2 4.77	2 4.41	2 4.09
	3 4.94	3 4.37	3 4.05
	4 4.87	4 4.35	4 4.03
	5 4.72	5 4.37	5 3.91
問 2	1 4.89	1 4.39	1 4.07
	2 4.87	2 4.43	2 4.10
	3 4.79	3 4.46	3 4.12
	4 4.85	4 4.48	4 4.14
問 3	1 4.94	1 4.50	1 4.28
	2 4.85	2 4.50	2 4.21
	3 4.85	3 4.37	3 4.12
	4 4.91	4 4.39	4 4.12
	5 4.91	5 4.48	5 4.10
	6 4.91	6 4.46	6 4.12
問 4	4.85	4.43	4.21

(表 3-2)

2023年度の後期授業アンケートの結果一覧（5点満点）

	保育内容表現	子ども文化演習 B
問 1	1 4.31	1 4.17
	2 4.55	2 4.15
	3 4.60	3 4.17
	4 4.60	4 4.19
	5 4.50	5 4.27
問 2	1 4.64	1 4.31
	2 4.64	2 4.31
	3 4.60	3 4.31

	4 4.64	4 4.37
問 3	1 4.62	1 4.29
	2 4.64	2 4.29
	3 4.62	3 4.31
	4 4.60	4 4.33
	5 4.69	5 4.31
	6 4.62	6 4.23
問 4	4.69	4.31

(表 3 - 3)

(1) 音楽 I

全項目の評価が 4 点代後半の高評価だった。特に問 3 の授業の進め方では、83%の学生が 5 点の評価を付けた。例年通り初級者と経験者コースに分けて授業を展開した。学生の出席率も大変良く、学ぶ姿勢も良好だった。これらの結果を見ると、授業内容や進度も適切で、教員の対応を良好だったと思われる。

問 4 では 4.85 の評価となっており、学生がこの授業を興味深く学んでいたと思われる。自由記述では、各自に的確な指導がもたらされた。ピアノは弾けても楽典を知らなかったので学べてよかった。親身になって教えてくれた。理解するまでくり返し指導してくれたなどの意見が多かった。音楽は覚えることが非常に多い教科であるが、初心者も多い為読譜力を習得することに重きをおき授業内容を検討した。今後の課題としては、ピアノの習得が著しく遅い学生の対応について検討をしていきたい。

(2) ピアノ I

全設問中、平均点が最も低かったのは問 1 の 1、欠席についての設問である。確かに前期のピアノ I の授業は、欠席、遅刻が例年に比べとても多いと感じた。もちろん学生全員がそうではないということは、この設問の標準偏差が全設問の中で最も高いことから窺える。遅刻欠席のないように指導していきたい。

問 3 の 1, 2 にある教員の話し方についてと、授業の説明の仕方がわかりやすかったかという設問に対する平均点が、4.50 点と最も高かった。全員に対し説明をする授業とは違い、学生一人一人のレベルに合わせた説明ができていたものと思われる。特に、問 2 の 4 は、平均点も高い上に標準偏差が最も低かった。3 の評価を付けた学生が 5 人と少なく、学生が技術の向上を感じていると言えよう。

また、問 2 の 4 と、問 3 の 5, 6 も平均点が高かったことにも注目したい。実際に、日々の積み重ねで学生の力が向上したと教員も感じている。継続は力なりで、怠けることなく、毎日少しでもピアノに触れて練習する時間をとるように引き続き指導していきたい。アンケートか

らは、概ね授業の内容や進め方、自身の習熟度に満足したという評価であったことはとても喜ばしい。座学の授業とは違い、学生一人一人にとって適切なレベルを図り、能力に合わせた楽曲や練習法を提示して指導に当たっている。これからも、個々の能力をよく見極めて適切な指導を行っていききたい。

（３）保育内容表現の指導法

問 1 では、設問 1～4 で 4 点台を得ている。一部の学生の遅刻、欠席が目立ったものの学生のこの授業に対しての興味や意欲が高かったものと考えられる。「5. 予習復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか」では、3.91 と若干低い評価になっているが、授業での表現活動が主となる為、必要性を感じた学生が少なかったものと思われる。

問 2 の授業内容について、問 3 の授業の進め方では 4 点台前半の評価となった。

問 2, 3 の結果から、表現活動を楽しみながら実践し、自身を感じた事を表現することができた学生が多かったようだ。各分野の知識を増やし、保育者として子どもに伝える術を習得できたのではないかと思われる。問 4 の全体評価では、4.21 の評価を得ており、子どもの成長において表現の重要性を理解し、この授業が有意義であったと感じた学生が多かったと考察される。

自由記述では、三分野の異なる表現を学べてよかった。保育現場で実際に活用できる内容が学べてよかった。指導案を書いたりして様々なことが学べたなどの記述があった。学生が表現を学び、体験したことを子ども達へ伝えようとしていることが喜ばしい。また、保育現場で活かすことを想定しながら授業を受けていた様子が伺えた。今後の課題としては、各分野の表現法に加え表現全体としての概念や他領域との関りにも触れながら授業を展開したい

（４）保育内容表現

問 1 あなた自身の、この授業の取り組みについては、欠席または遅刻早退をせずに受けましたかの項目で 4.31 と他項目より若干低くなっている。欠席が多い学生が数人おり、評価点 1 をつけていることによる結果と思われる。

問 2 の授業内容について、問 3 の授業の進め方では 4.60～4.69 点と高い評価となった。

問 2, 3 の結果から、表現活動を楽しみながら実践し、自身を感じた事を表現することができた学生が多かったようだ。各分野の知識を増やし、保育者として子どもに伝える術を習得できたのではないかと思われる。問 4 の全体評価でも、4.69 と高い評価を得ており、子どもの成長において表現の重要性を理解し、この授業が有意義であったと感じた学生が多かったと考察される。

自由記述では、授業が楽しかった。音楽・造形・身体と 3 つの分野に分かれてそれぞれの面白さを学べた。学んだことを自分なりにアレンジし、実習などで使いたい。などの記述が多く、学生が各分野での表現を楽しみながら学べたと思われる。

次年度に向けて各分野の表現をより一層充実させるとともに、音楽表現、身体表現、造形表現の3分野と他領域を融合させた内容にも取り組みたいと思う。

(5) 子ども文化演習B

本年度は、【Yamamura Juha Juhla】が山村学園100周年記念祭の時期と重なり、メインで動く2年生にとっては同時進行で準備をすることは大変だったと思う。問1-2 私語を慎んで授業を受けましたか。では、3.68と他項目と比べて低くなっているが、制作中は相談や話し合いは必要であり、協力していくためにも多少の私語は問題ないと思われる。

問2 授業内容、問3 授業の進め方では3.92~4.02となっている。この授業の評価としては、例年よりも低い評価となっている。すべての項目において評価1を付けている学生が数名いたことが要因だと思われるが、自由記述では前向きな良いコメントを記述しており、アンケート評価の数値よりもこの授業を楽しかった、有意義だったと感じた学生が多かったのではないかと思う。

自由記述では100周年パフォーマンスでは、メインで関わってよかった。貴重な経験が出来、今後に活かしていきたい。ヨーフラでは協力して準備が出来た。自分の意見をしっかり持ち、より良くするためにアイデアを出しながら活動できたので良かった。楽しくできたことが何より良かった。などのコメントがあった。

コロナ禍でイベントなどの他者と協力して取り組むことの経験が少なかった学生にとって、100周年記念祭のパフォーマンスやヨーフラへの取り組みは、はじめは見通しが立たず不安があったと思うが、準備が進むにつれ、目標ができ、不安が楽しさに変化し、本番では達成感を味わい、有意義な経験が出来た学生が多かったと思う。すべての学生が満足する結果を得るのは難しいが、他者と協力して何かを作り上げる楽しさが多くの学生に伝わるよう努力したい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 音楽I・II

短期的目標	<ul style="list-style-type: none">・楽典の理解と読譜力の向上。・こどものうたの特性を学びながら歌唱力の向上を図る。・音を五感で感じ、様々な手法で表現できる学生を育成する。・グループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と、人との関わり方を学べる授業展開を行う。・ピアノや楽典では、ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個別指導を取り入れ、より丁寧な指導を行う。
長期的目標	<ul style="list-style-type: none">・設備面の充実を図る。(電子ピアノ等)

	<ul style="list-style-type: none"> ・学園内の自然環境を生かした、音を感じる空間づくり ・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。
--	--

(2) ピアノⅠ / ピアノⅡ

短期的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典の理解と読譜力の向上。 ・拍子やリズム感を養う。 ・ピアノ演奏、弾き歌い技術の向上。 ・コードや和音を使って学生自身が歌の伴奏をできるような指導を行う。 ・レッスン時間の確保。ひとり 18分～20分 ・リトミックで活用できる楽曲や演奏法を取り入れた指導。
長期的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・設備面の充実を図る。(電子ピアノ等) ・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

(3) 保育内容表現・音楽

短期的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を楽しむことができる保育者を育成する。 ・音を五感で感じ、様々な手法で表現できる保育者を育成する。 ・こどもが使う楽器の奏法を知り、演奏ができる。 ・こども達に合奏の指導ができる。 ・正しい発生方法を知り、程よい声量で歌うことができる。 ・こどもにふさわしい歌い方を指導ができる。
長期的目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音を使った遊びや活動が考えられる保育者を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育に

	において役立つ人材を育成する。
--	-----------------

6. その他

毎年2月には入学予定者（初心者・未経験者）に対して、ピアノ初級講座を6日間（120分×5日）実施している。1回目では入学予定者全員に音楽・ピアノについての調査と面談を実施し、受講が必要と感じられた学生に2回目からレッスンを実施。入学までにピアノに触れる機会を設けることで、ピアノに対しての不安を取り除き、入学後も意欲をもって取り組めるようにすることが目的である。

音楽Ⅰ・Ⅱ／ピアノⅠ・Ⅱでは、習熟度の低い学生に対し補習レッスンを行っている。

7. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（音楽Ⅰ・Ⅱ　ピアノⅠ・Ⅱ　保育内容表現の指導法
保育内容表現　子供文化演習B）
- (2) 授業時配布プリント（一部）（音楽Ⅰ　保育内容表現　保育内容表現の指導法）
- (3) 授業用 PowerPoint（保育内容表現　保育内容表現の指導法）
- (4) 試験問題（音楽Ⅰ：筆記）（音楽Ⅱ／ピアノⅠ・Ⅱ実技）
（保育内容表現　保育内容表現の指導法　子供文化演習B：レポート）
- (5) 成績集計結果（音楽Ⅰ　音楽Ⅱ　ピアノⅠⅡ）
- (6) 授業アンケート結果の考察（音楽Ⅰ　音楽Ⅱ　保育内容表現　保育内容表現の
指導法　子ども文化演習B）